

街が好きな^き帰化植物

町の公園や道路ぞいの植え木の下、駐車場のすみなどの雑草の中には、もともと日本には生えていなかった植物が混じっています。みなさんが秋に「くんしょう」といって服にくっつけて遊ぶアメリカセンダングサや年中花を咲かせているセイヨウタンポポもその一つです。

外国から持ってこられて、新しい国に住みついてしまった植物を帰化植物と呼びます。帰化植物はどこにでも生育できる生命力おう盛な植物のように思われがちですが、実際はそうでもないようです。

街に生える帰化植物

科学文化センター前の国道41号線の歩道に造ってある花だんに生えている雑草の中に、どれだけの帰化植物があるかを調べてみました。全部で21種類の植物がありましたが、うち10種類が帰化植物でした(表)。

今度は同じ面積をまったく環境がちがう呉羽山のコナラの林で調べてみました。そこでは41種類の植物が見つかりましたが、帰化植物は1種類もありませんでした。

科学文化センター前の国道41号線沿いの
花だんに見られた雑草

日本の植物	帰化植物
クワクサ	ハキダメギク
ドクダミ	チチコグサモドキ
ハコベ	ホウキギク
ギシギシ	ヒメムカシヨモギ
オニタビラコ	ヒメジョオン
エノキグサ	ハルジオン
ケイヌビエ	ホウキギク
カタバミ	ノボロギク
メヒシバ	セイヨウタンポポ
オヒシバ	コヌカグサ
アキノエノコログサ	

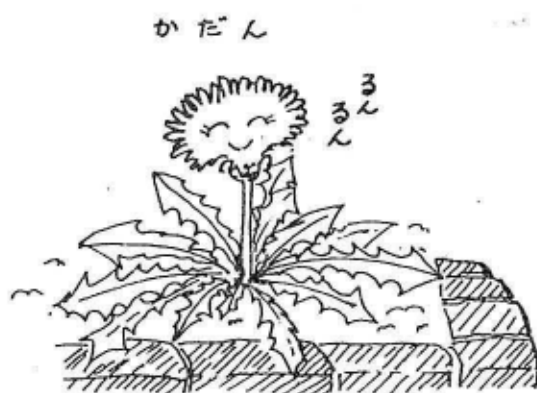
どうやら帰化植物は林には生えないで街の花だんのような環境に生える植物と言えそうです。

なぜ街が好きか

まず、帰化植物の多くは乾燥したアルカリ性の土を好みます。彼らのふるりの土地一帯がそのような環境だったからです。ところが、日本の林の土（腐葉土）はほとんどが酸性でかつしめっています。このため帰化植物は、林の中では生活できません。一方、街の花だんで土とって使っているものは普通、粘土や砂が混ざっただけのもので、腐葉土はほとんど入っていません。その上、コンクリートやアスファルトなどから少しずつ出てくるアルカリ性の液が入り込み、土はアルカリ性になっています。つまり帰化植物にとって、街は生活しやすい所になっているのです。

このことを利用して帰化植物の割合の多さを、都市化の度合いを比べるめやすにすることがあります。そうしてみると、呉羽山の林はぜんぜん都市化していない所と考えることができます。

さて、街に帰化植物が増えるからといって、彼らを日本の自然を破壊する悪者と考えてはいけません。彼らが生育しやすい環境である街を作り続けているのは私たちなのですから。（太田道人）



富山市科学文化センター

〒939 富山市西中野町1丁目8番31号

電話 (0764) 91-2123 (代表)

平成2年11月 1日発行